

干ばつ被害、国、県とも連携した対策必要

梅雨明けからの降雨がほとんどない中で農作物を中心とした干ばつ被害が深刻化しています。

日本共産党上越市議団では、7日以降調査に乗り出し、板倉区菰立、牧区坪山、吉川区町田、浦川原区法定寺、大島区旭地区などを調査してきました。そして14日、調査で寄せられた要望を基に、馬場県議（無所属）と共に中川幹太市長に要請書を提出しました（写真）。

この要請書では、10日に市が発表した「渇水と高温に伴う農作物等の被害に対する緊急支援」を評価しつつも、「こうした支援策だけでは救済できない農家なども広く存在している」として、3項目（①被害状況をしっかりと把握するために、農家からの報告を基本としつつも、行政として積極的に調査に入ること。②10日に発表した市の支援策で救済できない農家などに対しては、一定の見舞金支給などの検討をすること。③数年前の干ばつ被害など過去の被害と比べるなかで、同じ場所での被害が出ているならば、抜本的対策を研究し、対策をとること）の実施を求めています。

また、21日には、日本共産党の藤野

保史前衆院議員（衆院北陸信越ブロック比例候補）と平あや子さん（同比例候補）、馬場秀幸県議とともに牧区坪山（イラスト）、浦川原区真光寺に入りました。

このうち牧区坪山では、中川卓夫さんから案内してもらいました。中川さんは山間部で12畝もの稲作経営をしている人です。干ばつで稲が変色した田んぼでは、「このままだと胴割れ米が発生し、間違いなく等級は悪くなって、お金はいくらも入らない。地割れもひどく、以前取り組んだ地固めの支援事業をしてもらわないと、来年は耕作ができない。地割れによる地滑りも心配だ」と訴えました。また、集落内で最大のため池（8町歩の田んぼに水を供給している）では、「平成8年に3000万円をかけてシート張りの工事してもらったが、あちこちでシートが切れるなど老朽化が著しく、改修が必要だ。これも関係者だけではできない。支援をお願いしたい」と要望されました。



市議団ではこうした要望を受け止め、今後、県、国と連携した対策を求めています。



頸城野郷土資料室主催の「くびき野カレッジ」で「結婚式の形をさぐる」というタイトルでお話してきました。私は、これまで書いてきたエッセイの中から「万年青（おもと）」「甥の結婚式」「花嫁行列」を取り出し、私が見聞きした結婚式の变迁について語りました。

その後、用意してきたイラストなどを使いながら、「家と家の結婚式」から「結婚する当事者中心の結婚式」への発展と課題について語りました。どんな形の結婚式であろうと自由ではありませんが、何よりも結婚する当事者の気持ち、尊重されること、地域のこと、地元の伝統を大事にしたいことなどを中心に据え、話をさせていた

きました。



【キンカン】ミカン科の常緑低木。漢字で、「金柑」と書きます。長年食べてきたにもかかわらず、いまの時期に白い小さな花を咲かせることは知りませんでした。先日、私の地元で初めてこの花と出合いました。花期は7月～9月。花言葉は「思い出」「感謝」。写真は8月10日、吉川区代石にて撮影。

「くびき野カレッジ」で報告

はしづめ法一の活動レポート

No.2123 2023.8.27

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

干ばつ被害、国、県とも連携した対策必要

梅雨明けからの降雨がほとんどない中で農作物を中心とした干ばつ被害が深刻化しています。

日本共産党上越市議団では、7日以降調査に乗り出し、板倉区菰立、牧区坪山、吉川区町田、浦川原区法定寺、大島区旭地区などを調査してきました。そして14日、調査で寄せられた要望を基に、馬場県議（無所属）と共に中川幹太市長に要請書を提出しました（写真）。

この要請書では、10日に市が発表した「渇水と高温に伴う農作物等の被害に対する緊急支援」を評価しつつも、「こうした支援策だけでは救済できない農家なども広く存在している」として、3項目（①被害状況をしっかりと把握するために、農家からの報告を基本としつつも、行政として積極的に調査に入ること。②10日に発表した市の支援策で救済できない農家などに対しては、一定の見舞金支給などの検討をすること。③数年前の干ばつ被害など過去の被害と比べるなかで、同じ場所での被害が出ているならば、抜本的対策を研究し、対策をとること）の実施を求めています。

また、21日には、日本共産党の藤野

保史前衆院議員（衆院北陸信越ブロック比例候補）と平あや子さん（同比例候補）、馬場秀幸県議とともに牧区坪山（イラスト）、浦川原区真光寺に入りました。

このうち牧区坪山では、中川卓夫さんから案内してもらいました。中川さんは山間部で12畝もの稲作経営をしている人です。干ばつで稲が変色した田んぼでは、「このままだと胴割れ米が発生し、間違いなく等級は悪くなって、お金はいくらも入らない。地割れもひどく、以前取り組んだ地固めの支援事業をしてもらわないと、来年は耕作ができない。地割れによる地滑りも心配だ」と訴えました。また、集落内で最大のため池（8町歩の田んぼに水を供給している）では、「平成8年に3000万円をかけてシート張りの工事してもらったが、あちこちでシートが切れるなど老朽化が著しく、改修が必要だ。これも関係者だけではできない。支援をお願いしたい」と要望されました。



市議団ではこうした要望を受け止め、今後、県、国と連携した対策を求めています。



もう一つ、作品鑑賞だけでなく、会場にいる人と楽しく交流できる場所もほしい。この日は、高齢の女性の方も、「読ませてもらった本が、私に話しかけてくれた。活動しなさい、弾みだ。来年はどんな会があるのか、今から楽しみにしています。」

お盆の十三日、柿崎区直海浜の真宗大谷派寺院・光徳寺の本堂において開催された「光徳寺作品展」を観てきました。子どもから高齢者まで誰もが作品を出せるという話題になっているこの作品展、今回も絵画、写真、木工、織物などの作品がたくさん並んでいました。私の最新エッセイ集、『花嫁行列』も展示していただきました。この作品展を観て、毎回感心するのは出展された作品を平らにあつかっていることです。絵画ひとつみても、絵画教室の指導者もいれば、絵を描き始めて間もない人もいます。いろいろな人が出展していますが、みんな等しく扱われていますのがいいですね。



【キンカン】ミカン科の常緑低木。漢字で、「金柑」と書きます。長年食べてきたにもかかわらず、いまの時期に白い小さな花を咲かせることは知りませんでした。先日、私の地元で初めてこの花と出合いました。花期は7月～9月。花言葉は「思い出」「感謝」。写真は8月10日、吉川区代石にて撮影。

光徳寺作品展、今年も多数の作品が本堂埋める

はしづめ法一の活動レポート

No.2123 2023.8.27
 発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <https://www.hose1.jp/>

QRコード
 ブログ「ホーセの見である記」はこちら

干ばつ被害、国、県とも連携した対策必要

梅雨明けからの降雨がほとんどない中で農作物を中心とした干ばつ被害が深刻化しています。

日本共産党上越市議団では、7日以降調査に乗り出し、板倉区菰立、牧区坪山、吉川区町田、浦川原区法定寺、大島区旭地区などを調査してきました。そして14日、調査で寄せられた要望を基に、馬場県議（無所属）と共に中川幹太市長に要請書を提出しました（写真）。

この要請書では、10日に市が発表した「渇水と高温に伴う農作物等の被害に対する緊急支援」を評価しつつも、「こうした支援策だけでは救済できない農家なども広く存在している」として、3項目（①被害状況をしっかりと把握するために、農家からの報告を基本としつつも、行政として積極的に調査に入ること。②10日に発表した市の支援策で救済できない農家などに対しては、一定の見舞金支給などの検討をすること。③数年前の干ばつ被害など過去の被害と比べるなかで、同じ場所での被害が出ているならば、抜本的対策を研究し、対策をとること）の実施を求めています。

また、21日には、日本共産党の藤野

保史前衆院議員（衆院北陸信越ブロック比例候補）と平あや子さん（同比例候補）、馬場秀幸県議とともに牧区坪山（イラスト）、浦川原区真光寺に入りました。

このうち牧区坪山では、中川卓夫さんから案内してもらいました。中川さんは山間部で12畝もの稲作経営をしている人です。干ばつで稲が変色した田んぼでは、「このままだと胴割れ米が発生し、間違いなく等級は悪くなって、お金はいくらも入らない。地割れもひどく、以前取り組んだ地固めの支援事業をしてもらわないと、来年は耕作ができない。地割れによる地滑りも心配だ」と訴えました。また、集落内で最大のため池（8町歩の田んぼに水を供給している）では、「平成8年に3000万円をかけてシート張りの工事してもらったが、あちこちでシートが切れるなど老朽化が著しく、改修が必要だ。これも関係者だけではできない。支援をお願いしたい」と要望されました。



市議団ではこうした要望を受け止め、今後、県、国と連携した対策を求めています。



上の右は安塚区上方の池。その左は浦川原区法定寺の稲が枯れた田んぼ。

下の右は地割れした大島区足谷の田。左は水害にあった牧区平等橋近くの取水口と堰堤



被災現場の写真

【キンカン】ミカン科の常緑低木。漢字で、「金柑」と書きます。長年食べてきたにもかかわらず、いまの時期に白い小さな花を咲かせることは知りませんでした。先日、私の地元で初めてこの花と出合いました。花期は7月～9月。花言葉は「思い出」「感謝」。写真は8月10日、吉川区代石にて撮影。

はしづめ法一の
活動レポート

No.2123 2023.8.27

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
である記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七七〇回

初盆の初日に

母が亡くなって最初のお盆がやってきました。すでに十か月が経っています。まだわが家に母の遺骨が置いてあることもあって、母が別世界に行ってしまったという実感はありません。

それにもかかわらず、今年のお盆は十三日に心揺さぶられる出来事がいくつもあり、忘れられない新盆となりました。

この日は朝八時過ぎに家を出て、まず、にあるわが家の墓参りをしてきました。墓地では、セミの鳴き声が賑やかでした。

墓場に到着して、わが家の墓の花立を見てびっくりしました。いつもよりもかなり早い時間に行ったというのに、すでにグラジオラスや百日草などの花が入っていたのです。あとで調べて分かったことですが、母と仲良しだった親戚筋の人が十二日のうちにお参りしてくださったのでした。この人は母と一緒に板山の『伊作』に泊まるなど母と深い交流をしてくださった方です。母との思い出を大切に、お参りして下さったことをとてもうれしく思いました。

わが家の墓参りが終わってからは、恒例の宣伝行動で直江津の二八市へ行きまし。お盆中で、しかも猛暑にもかかわらず、いつものお店の人たちが野菜や漬物、花などを売っていました。

このうち、漬物屋さんところで、懐かしい女性と再会しました。十四年前、私の父が亡くなったときに、わざわざ大湊区の葬儀場に来てくださった方です。私が元気をなくしているだろうと、参列して下さったものと、その時、思いました。その後、市内で二、三回、見かけたことがありましたが、近年は出会うことも全くなかった方でした。偶然とはいえ、お盆の初日に再会できたのはうれしく思いました。

宣伝行動が済んでから、吉川区山直海の専徳寺へ向かいました。ここには、これまで大島区竹平の墓地にあった母の実家の墓

が移されています。この日は、墓参りのために、従兄（故人）の連れ合いの好子さんと、子どもさんが来ると聞いていました。電車で浦川原駅まで来て、その後はタクシーに乗って専徳寺に午前十一時頃着くことでした。正直言って、直江津での市宣伝をしてから向かって間にも合わないと思っていました。でも、思いのほか短時間で着くことができました。

私が着いたときは、好子さんと娘の優子さんが墓の汚れを落とし、きれいにする作業を始めたばかりでした。挨拶した直後、墓石の北側にいた優子さんが声をあげました。「あっ、カエルがいる！」。その声を聞き、墓を見ると、薄茶色の小さなカエルが二匹いました。

これらのカエルは掃除をしても逃げませんでした。逃げるところか、うれしそうに動いている、私にはそう見えませんでした。これは作業中の二人もそう思ったようで、好子さんは「これはジイジだ」と言って喜んでいました。

この日、二人はお酒が入ったワンカップを二個用意してきていました。カエルには、このワンカップが目に入ったのかも知れませんが、カエルの一匹が従兄だとすると、もう一匹は、英一伯父さんでしょうね。周りの他の家の墓も見てみましたが、カエルたちがいたのは母の実家の墓だけでした。どうあれ、この二匹のカエルの出現は私も大歓迎でした。カエルたちの姿を見て、従兄や伯父が茶の間でお酒を楽しく飲んでる姿が目に見えました。

専徳寺の墓地にいた時間は三〇分ほどでしたが、元尾神住民の長沢さん一族の人たちとも会うことができました。

この日は行く先々で懐かしい再会を果たすことができました。母に教えれば、「そりゃ、良かったな」と言って、喜んでくれたと思います。とてもいい日でした。

40年前からの夢だった詩集を出版した山田さん

40年前、仲間の結婚を契機に、ノートに詩を書き始め、「このノートにうたがいっぱいになったら、ぼくはみんなに胸をはって、『ぼくの作った詩だよ』と言って詩集をおくりたい」と書いていた人が、ついにその夢を実現させました。その人は、上越市大湊区湊田在住の山田護さん（73歳）です。



先日、その詩集『詩の花東』をいただきました。

仲間や友人、家族、ふるさとへの想いが綴られたこの詩集には、「はじめに」、「あとがき」の詩を含めて39篇の詩が入っています。みんな素敵な詩ですが、中でも雪国の春到来の喜びを書いた「春」、大切な仲間である人がなくなる10日前に書いて寝たという「翼を休めよう」、海や山、花を愛し、平和な暮らしを願って書

いた「願い」は私の大好きな詩です。何度読んでも心打たれます。本の中にある夕陽や雲などの写真は山田さんの撮影です。歌声の仲間だった名川定信さんが描いた表紙と裏表紙の絵とともに、この詩集を一層魅力的にしています。

この詩集は山田さんの自費出版で、部数に限りがあるとのこと。本屋さんには並びませんので、お読みになりたい方は山田さんに電話（025-534-3752）してみてください。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月8日(火)	8月23日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.047	0.043
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.043	0.047
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.047	0.047
名立分遣所	0.050	0.050
高士分遣所	0.053	0.050

春よ来い

第七七〇回

初盆の初日に

母が亡くなって最初のお盆がやってきました。すでに十か月が経っています。まだわが家に母の遺骨が置いてあることもあって、母が別世界に行ってしまったという実感はありません。

それにもかかわらず、今年のお盆は十三日に心揺さぶられる出来事がいくつもあり、忘れられない新盆となりました。

この日は朝八時過ぎに家を出て、まず、にあるわが家の墓参りをしてきました。墓地では、セミの鳴き声が賑やかでした。

墓場に到着して、わが家の墓の花立を見てびっくりしました。いつもよりもかなり早い時間に行ったというのに、すでにグラジオラスや百日草などの花が入っていたのです。あとで調べて分かったことですが、母と仲良しだった親戚筋の人が十二日のうちにお参りしてくださったのでした。この人は母と一緒に板山の『伊作』に泊まるなど母と深い交流をしてくださった方です。母との思い出を大切に、お参りしてくださったことをとてもうれしく思いました。

わが家の墓参りが終わってからは、恒例の宣伝行動で直江津の二八市へ行ききました。お盆中で、しかも猛暑にもかかわらず、いつものお店の人たちが野菜や漬物、花などを売っていました。

このうち、漬物屋さんところで、懐かしい女性と再会しました。十四年前、私の父が亡くなったときに、わざわざ大湊区の葬儀場に来てくださった方です。私が元気をなくしているだろうと、参列して下さったものと、その時、思いました。その後、市内で二、三回、見かけたことがありましたが、近年は出会うことも全くなかった方でした。偶然とはいえ、お盆の初日に再会できたのはうれしいことでした。

宣伝行動が済んでから、吉川区山直海の専徳寺へ向かいました。ここには、これまで大島区竹平の墓地にあった母の実家の墓

が移されています。この日は、墓参りのために、従兄（故人）の連れ合いの好子さんと、子どもさんが来ると聞いていました。電車で浦川原駅まで来て、その後はタクシーに乗って専徳寺に午前十一時頃着くことでした。正直言って、直江津での市宣伝をしてから向かって間にも合わないと思っていました。でも、思いのほか短時間で着くことができました。

私が着いたときは、好子さんと娘の優子さん、墓の汚れを落とし、きれいにする作業を始めたばかりでした。挨拶した直後、墓石の北側にいた優子さんが声をあげました。「あっ、カエルがいる！」。その声を聞き、墓を見ると、薄茶色の小さなカエルが二匹いました。

これらのカエルは掃除をしても逃げませんでした。逃げるところか、うれしそうに動いている、私にはそう見えませんでした。これは作業中の二人もそう思ったようで、好子さんは「これはジイジだ」と言って喜んでいました。

この日、二人はお酒が入ったワンカップを二個用意してきていました。カエルには、このワンカップが目に入ったのかも知れませんが、カエルの一匹が従兄だとすると、もう一匹は、英一伯父さんでしょうね。周りの他の家の墓も見てみましたが、カエルたちがいたのは母の実家の墓だけでした。どうあれ、この二匹のカエルの出現は私も大歓迎でした。カエルたちの姿を見て、従兄や伯父が茶の間でお酒を楽しく飲んでる姿が目につきました。

専徳寺の墓地にいた時間は三〇分ほどでしたが、元尾神住民の長沢さん一族の人たちとも会うことができました。この日は行く先々で懐かしい再会を果たすことができました。母に教えれば、「そりゃ、良かったな」と言って、喜んでくれたと思います。とてもいい日でした。

下黒川夏祭り…歌あり、踊りありで賑やかに



20日は、夕方から下黒川夏祭りに行きました。会場はわが家から車で五分足らずです。会場の下黒川小学校グラウンドには大勢の人が集まっていました。

頸北太鼓・瑞芭の演奏時、ひとりの子どもが動き回っていて、とてもかわいかったです。ピアスの演奏は今回も好評でしたね。

盆踊りの「十三夜」では、私も輪の中に加わりました。

上のイラストは大鼓演奏の様子です。バックの雲が夕日でオレンジ色に染まっています。下のイラストはピアスの演奏風景です。



上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。
消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月8日(火)	8月23日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.047	0.043
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.043	0.047
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.047	0.047
名立分遣所	0.050	0.050
高士分遣所	0.053	0.050

春よ来い

第七七〇回

初盆の初日に

母が亡くなって最初のお盆がやってきました。すでに十か月が経っています。まだわが家に母の遺骨が置いてあることもあって、母が別世界に行ってしまったという実感はありません。

それにもかかわらず、今年のお盆は十三日に心揺さぶられる出来事がいくつもあり、忘れられない新盆となりました。

この日は朝八時過ぎに家を出て、まず、にあるわが家の墓参りをしてきました。墓地では、セミの鳴き声が賑やかでした。

墓場に到着して、わが家の墓の花立を見てびっくりしました。いつもよりもかなり早い時間に行ったというのに、すでにグラジオラスや百日草などの花が入っていたのです。あとで調べて分かったことですが、母と仲良しだった親戚筋の人が十二日のうちにお参りしてくださったのでした。この人は母と一緒に板山の『伊作』に泊まるなど母と深い交流をしてくださった方です。母との思い出を大切に、お参りしてくださったことをとてもうれしく思いました。

わが家の墓参りが終わってからは、恒例の宣伝行動で直江津の二八市へ行きまし。お盆中で、しかも猛暑にもかかわらず、いつものお店の人たちが野菜や漬物、花などを売っていました。

このうち、漬物屋さんところで、懐かしい女性と再会しました。十四年前、私の父が亡くなったときに、わざわざ大湊区の葬儀場に来てくださった方です。私が元気をなくしているだろうと、参列して下さったものと、その時、思いました。その後、市内で二、三回、見かけたことがありましたが、近年は出会うことも全くなかった方でした。偶然とはいえ、お盆の初日に再会できたのはうれしいことでした。

宣伝行動が済んでから、吉川区山直海の専徳寺へ向かいました。ここには、これまで大島区竹平の墓地にあった母の実家の墓

が移されています。この日は、墓参りのために、従兄（故人）の連れ合いの好子さんと、子どもさんが来ると聞いていました。電車で浦川原駅まで来て、その後はタクシーに乗って専徳寺に午前十一時頃着くことでした。正直言って、直江津での市宣伝をしてから向かって間にも合わないと思っていました。でも、思いのほか短時間で着くことができました。

私が着いたときは、好子さんと娘の優子さん、墓の汚れを落とし、きれいにする作業を始めたばかりでした。挨拶した直後、墓石の北側にいた優子さんが声をあげました。「あっ、カエルがいる！」。その声を聞き、墓を見ると、薄茶色の小さなカエルが二匹いました。

これらのカエルは掃除をしても逃げませんでした。逃げるどころか、うれしそうに動いている、私にはそう見えませんでした。これは作業中の二人もそう思ったようで、好子さんは「これはジイジだ」と言って喜んでいました。

この日、二人はお酒が入ったワンカップを二個用意してきていました。カエルには、このワンカップが目に入ったのかも知れませんが、カエルの一匹が従兄だとすると、もう一匹は、英一伯父さんでしょうね。周りの他の家の墓も見てみましたが、カエルたちがいたのは母の実家の墓だけでした。どうあれ、この二匹のカエルの出現は私も大歓迎でした。カエルたちの姿を見て、従兄や伯父が茶の間でお酒を楽しく飲んでる姿が目につきました。

専徳寺の墓地にいた時間は三〇分ほどでしたが、元尾神住民の長沢さん一族の人たちとも会うことができました。この日は行く先々で懐かしい再会を果たすことができました。母に教えれば、「そりゃ、良かった」と言って、喜んでくれたと思います。とてもいい日でした。

山の上フェスティバルで夕焼けを楽しむ

11日の夕方、尾神岳で行われた「山の上フェスティバル」に行ってきました。

パノラマハウスのところへ行って間もなく、日は沈みました。タイミングがとても良かったです。その後、柿崎の花火も少し観てきました。尾神岳から観ると、小さくみえますが、いいもんですね。イラストでは夕日が沈んだ後の夕焼けを楽しむ人々を描きました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月8日(火)	8月23日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.047	0.043
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.043	0.047
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.047	0.047
名立分遣所	0.050	0.050
高士分遣所	0.053	0.050

大島区田麦で4年ぶりに盆踊り



15日の夜、大島区田麦の盆踊りを見てきました。80人近い住民がセンター前の広場に集まり、ションガイ節などの踊りを楽しんでいました。若い人の参加があって、踊りの輪も広がりました。立派なやぐらも作って本格的でした。その模様をイラストにしました。